

神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第182号

令和3年1月14日発行
事務局：県立青少年センター
科学部 科学支援課
電話：046-222-6370

子どもサイエンスフェスティバル 2020

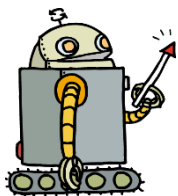
例年夏季に開催している「青少年のための科学の祭典 神奈川県大会」は、残念ながら8月末までの県民利用施設休館のため開催できませんでしたが、その県内地域版である「子どもサイエンスフェスティバル」を、2020年の年末からの開催を計画しました。

子どもサイエンスフェスティバルは、県内の様々な企業・NPO 法人・有志・学校等が科学工作や実験のブースを出展し、参加者は自由に体験できる催しで、数百人が来場する人気事業でした。しかし、今年度は感染症対策として、①3つの時間帯ごとの定員制、②事前の参加申し込み制、③出展団体数の削減を行い、小規模な科学体験教室形式に変更しました。

第1回 子どもサイエンスフェスティバル 横須賀大会

12月19日(土) 横須賀市立青少年会館 来場者40名 (内保護者19名)





出展団体を昨年の11団体から4団体に削減し、午前 A、午後 B、午後 C の3つの時間帯を設けて募集し、4人のグループで決められた時間毎に出展団体で体験をする形式で開催しました。残念ながら応募者数が少なく午前の A に19名、午後 C に21名の参加となりましたが、ほぼ出展スタッフ1人に対して体験者1人という体制で、出展団体のスタッフによる丁寧な指導を受けながら科学体験を楽しむことができました。



また参加者がいなかった B の時間帯では、出展団体同士が、お互いの工作や実験を教え合うなど、科学指導者同士の交流の機会として活用しました。

また、青少年会館のご協力によりホールや会議室に体験場所を分散し、十分な距離を保って設置できました。

<p>青少年会館正面玄関</p>	<p>①三浦学苑高等学校 科学部</p>	<p>②特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会</p>
	<p>ぶんぶんこまをぶんぶん回そう</p>	<p>ミニすだれを作ろう</p>
<p>事前申し込み・人数制限のため、例年のような開場前の行列はありませんでした。</p>	<p>高校生のお兄さん・お姉さんに教わって、丸や四角、三角のぶんぶんこまを作りました。帰るときに受付にいたスタッフに回して見せてくれる子たちもいました。</p>	<p>自然素材の竹やひもを編んで、自分のオリジナルのすだれを作りました。2021年の干支(丑)の飾りを付けると、お正月飾りになります。</p>

<p>③NPO 法人 おもしろ科学たんけん工房</p>	<p>④サイエンスラボ 30</p>	<p>ホール</p>  <p>会議室</p> 
<p>おもしろ科学ひろば</p>	<p>レインボーボックスを作って 虹を見よう</p>	
		
<p>くるくる回るリングの工作とジェットコースターの模型を使った力学的エネルギー保存則の演示実験を体験しました。</p>	<p>簡易分光器を作って虹を観察しました。また、なぜ虹が見えるのか、解説をしてもらいました。</p>	

中止

第2回 子どもサイエンスフェスティバル小田原大会 第3回 子どもサイエンスフェスティバル相模原大会

1月7日夜に発出された緊急事態宣言を受け、予定していた1月9日(土) 小田原大会(会場: 小田原市生涯学習センターけやき)と1月16日(土) 相模原大会(会場: 相模原市立青少年学習センター)が中止になりました。小田原大会は平成22年度以来10年ぶりの開催で、定員45人(15人×3回)に対して150人以上の応募がありました。当選した方には楽しみにしていただいていたが、予定日の前日に中止連絡という残念な状況となってしまいました。

なお、出展を予定していたのは、小田原大会は、伊志田高等学校自然科学同好会・紅葉ヶ丘無線クラブ・(公財)日本技術士会神奈川県支部・WDB(株)エウレカ社、相模原大会は、向の岡工業高等学校 定時制 地球惑星科学部・自然科学に親しむ会・県立青少年センター科学部・(公財)日本技術士会神奈川県支部でした。

ロボットプログラム(入門)

青少年センターで開催してきたロボットプログラムの講座の内容が、今年から変わりました。小学校で始まったプログラミング学習をきっかけに興味を持つ子どもたちが増えることを想定し、昨年までの初級・中級・上級の3講座の内容を取り入れながら、入門講座を2種類、応用講座を1種類に編成し直しました。入門講座をご紹介します。

12月5日(土) 青少年センター-科学部(厚木)
主に色センサーを用いて操作するプログラミング

12月19日(土) 青少年センター(横浜)
主に超音波センサーを用いて操作するプログラミング



距離をとって少人数で実施しました

事務局から 今号では、子どもサイエンスフェスティバル特集号として横須賀・小田原・相模原の3大会の様子をお届けする予定でした。ところが感染者増が続き、とうとう1都3県に非常事態宣言が発出され、今号はギリギリ開催できた横須賀大会の報告と、2大会の中止の報告となってしまいました。残念です。学校の一斉休業にはなりませんでした。子どもたちはまた制限された日々を送らざるを得なくなりました。誰もが初めての大変な状況ですが、大人も子どもも関係なく、自分や他人の命と将来のために、頑張るしかありません。協議会のみなさまもご愛ください。また今年もよろしくお願いいたします。(事務局: 千葉、秋田谷、山田、齋藤)

